

# 「新しい社会科地図」の検討の観点と特色

検討項目	観点	特色と具体事例
<p>教科の目標、内容、組織、配列</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習指導要領の目標や内容をふまえ、適切な資料に基づき効果的な構成、配列で提示しているか。</li> <li>●地理的分野と歴史的分野を平行して学習できる配慮がなされているか。</li> <li>●公民的分野との関連について配慮がなされているか。</li> <li>●道徳教育との関連をはかるための配慮がなされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎地理的分野の学習指導要領の順序にそって構成しています。大項目の(1)世界の様々な地域、(2)日本の様々な地域に対応して構成しています。各見開きの右ページに見出しを兼ねたツメを設けて、その流れがわかるようにしました。</li> <li>◎歴史的分野の教科書で扱う地名や遺跡には、紫色に白い文字で強調しました。</li> <li>◎歴史的な視点でまとめられた主題図(資料図)を掲載しました。 → [例] P.15-16 「約100年前の世界」、P.74 「商業都市として歴史を持つ大阪」、P.135 ① 「江戸から東京への移り変わり」、P.151-152 ② 「旧国名」など</li> <li>◎平和教育、環境問題のほか、次のようなテーマも扱っています。 <b>宗教</b> (P.16 ③世界の宗教、P.117 ③イスラム教)、地域の文化 (P.151 食の文化)、国際関係 (P.33 EUの拡大)、情報教育 (P.58 インターネットの普及率)、事項別さくいん (P.149)</li> <li>◎身近な地域の調査には、<b>社会参画</b>の視点を盛りこみました。また、<b>NIE</b>にも対応できる構成です。</li> <li>◎自然への親しみ、郷土の文化や生活への親しみなど、第3章道徳の第2に示す内容について指導がはかれるようにしています。 → [例] P.75-76 「京都、奈良での文化の維持」、P.137 「東北地方の伝統産業と行事」、P.151 「日本の食文化」ほか</li> </ul>
<p>一般図の重点化の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●一般図の内容は、重点化されているか。また一般図の縮尺はどうなっているか。</li> <li>●一般図の表現は見やすく適切かどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎世界の一般図……各大陸図は4000万(環太平洋は5000万)で統一し、国名、主要都市名、主な自然地名などで構成しています。地域詳細図は、500万～2500万で500万単位の<b>区切りのよい縮尺</b>にしています。</li> <li>◎日本の一般図……地域詳細図は100万の等高線段彩表現で統一しています。(→P.61-62 ほか)</li> <li>◎世界と日本の一般図では、地図の基本である等高線とその段彩を採用しています。日常見慣れた色調である<b>平地を緑色、山地を茶色</b>にしました。地名や地図記号が読みやすくなっています。</li> <li>◎さくいんでは、全ての市町村をフルネームで掲載しました。</li> </ul>
<p>発達段階と興味および関心への配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生徒の発達段階を考慮し、興味や関心をもって学習に取り組めるようになっていくか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎多様な資料提示で学習課題に迫ることができるように配慮しています。 [写真資料] 人々の生活場面、自然や産業の様子を各地域やテーマにそって選択し、鮮やかなカラー写真を約110点掲載しています。 [鳥瞰図、模式図] 地形や産業、開発の事例をわかりやすく提示しています。 → P.19 鳥瞰図 [模式図]、P.26、P.47、P.51 ①、P.64 ①、P.75 ①、P.91 ①、P.134 ①</li> <li>◎検索機能を充実させ、探したいページがすぐに見つかるよう工夫しています。 <b>右ページの脇にツメ</b>を設け、地図の右下には<b>地球儀をかたどった位置図</b>を掲載しました。</li> </ul>
<p>地図の活用を促す工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生徒が地図を用いて主体的に学習に取り組めるように工夫されているか。</li> <li>●多様な授業展開へ対応できるように資料が示されているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎巻頭に「地図でスタート」を設けました。小学校の学習内容を受けて、生徒自らが地図に親しみ活用していく導入として位置づけました。(→P.4-6)</li> <li>◎一般図には「注目したい地図記号」を各図に例示しました。各地域の特色が浮き彫りになるテーマを選択しています。このテーマは一般図に続く資料図の内容と関連していますので、一般図と資料図を関連づけて活用することが可能です。→九州地方では自動車工場と火山 (P.61)。東北地方では果実 (P.94)。</li> <li>◎資料図ページの冒頭には「チャレンジ」を設けました。地図帳を活用してご指導いただく際の展開例を3～4段階で例示しました。</li> <li>◎資料図は一点ごとに「読図の一步」を例示しました。各図の読図の視点や学習活動に取り組む際のヒントを具体的に示しました。</li> <li>◎[国名一覧] P.2-P.3に「国名さくいん」を掲載、同ページの「世界の国々」とあわせて活用できるようにしています。また、巻末資料では、世界の全独立国194か国のデータを掲載しています。</li> <li>◎世界の諸地域の学習で大きく扱われる機会の多い国には、産業などの基礎・基本的な事象を掲載しました。とりわけ中国にはP.25-26で多くの主題図(資料図)を掲載し、より深い理解ができるようにしました。</li> </ul>

検討項目	観点	特色と具体事例
地図の活用を促す工夫		<ul style="list-style-type: none"> <li>◎基礎的な知識の習得と技能の定着をめざした「1部」と、習得した内容を深めたり発展させたりする「2部」に大別した構成としました。「1部」は一般図と基礎的な資料図で、「2部」は資料図や統計資料で構成しました。全体を通して資料性が豊富になっています。</li> </ul>
地球的課題と国際理解への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>●世界の環境問題や資源、食料など、今日的な課題についてどのように対処しているか。</li> <li>●国際理解の観点から、どのような資料を、どのように扱っているか。また、近隣諸国をどのように扱っているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎世界の環境問題では系統的な考察ができるよう配列しました。まずマクロな視点から、温暖化や砂漠化などを事例に<b>持続可能な世界</b>をめざしてという視点でP.7-10で集中的に扱っています。また、世界遺産の登録地など環境の保全に関してはP.8に掲載しています。ミクロな視点から、P.117でヨーロッパの環境問題を、P.136②「大都市での気温の上昇」で東京におけるヒートアイランド現象などを取り上げました。</li> <li>◎人口問題や資源、食料、公害についても随所で扱っています。 → [例] P.53,56,136</li> <li>◎[平和教育] アジア各国の独立 (P.18①)、アフリカ各国の独立 (P.119①)、平和都市広島・長崎 (P.131-132②)、戦争と平和 (P.149 事項別さくいん)</li> <li>◎[防災教育] 世界の火山、大地震 (P.11③)、日本の自然災害 (P.123②)、新潟県中部地震 (P.134①)</li> <li>◎異文化理解の観点から、生活や宗教、民族に関する資料を多数取り上げています。 → P.26⑥中国の食生活、P.109②世界の食文化、P.151日本の食生活など</li> <li>◎東アジアを中心に、資料が充実しています。特に朝鮮半島についてはP.24で扱っているほか、P.128②「外国人登録者数」でも取り上げています。</li> <li>◎日本の領域をめぐる問題に着目できるように、正確な位置関係がわかる地図を掲載しました。P.49 (日本の領域)、P.59-60 (尖閣諸島)、P.67 (竹島)、P.100 (北方領土)</li> </ul>
人権尊重への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人権尊重の視点に立った取扱いがなされているか。</li> <li>●特別支援教育への配慮は適切か。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎同年代の男女の生徒のキャラクターを配置して、協力して学習が進められるようにしています。 P.19-98「チャレンジ」、P.5-6「地図でスタート」</li> <li>◎生徒が活動している写真が含まれています。 P.10</li> <li>◎資料図には人権の観点を取り入れて作成しました。(P.33①ヨーロッパの統合と格差、②ヨーロッパの言語と宗教)、(P.44③アメリカ合衆国の人々)、(P.128②外国人登録者数)、(P.138③アイヌの人たちを先住民族と認める決議)</li> <li>◎すべての生徒のわかりやすさにつながるように、巻頭に「地図でスタート」を設けました。小学校の学習内容と連携した展開です。</li> </ul>
内容の正確性、彩色、色調など	<ul style="list-style-type: none"> <li>●確実な典拠に基づいた正確で新しい内容になっているか。</li> <li>●彩色や色調は適切な表現になっているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎信頼のおける典拠に基づいて内容を選択、提示するとともに、一般図・主題図とも最新のデータで作成しています。</li> <li>◎カラーバリアフリーに取り組むボランティア団体の協力を得て、色にかかわる表現を点検し、だれもが見やすく、分かりやすいレイアウトを心がけています。</li> <li>◎図の内容、目的に応じて、最も適切な彩色や文字、記号で表現しています。また、カラーバリアフリーに対しては以下の配慮をしています。 →一般図の市街地を黄色、国名・都道府県の赤文字と黒の縁取り</li> <li>◎記号を区別する場合、色だけでなく形状によって区別できるようにしました。(例 P.52 暖流 → 寒流 →)</li> <li>◎日本の一般図では、市町村名のほか、山や川など自然地名に全てルビを付しました。</li> </ul>
造本上の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習意欲を喚起し、使いやすくするための工夫がなされているか。</li> <li>●印刷は鮮明であるか。製本は堅牢であるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎巻頭ページをはじめ、折込みを学習効果が高い箇所に配置させました。 ・P.4を開くとどのページでも地図記号を確認することができます。 ・P.91-93では、首都東京を詳細な地図とイラストで立体的に見比べられるようにしました。また、市街地の拡大の変容も確認できます。</li> <li>◎製本は糸かがりを使いやすく、堅牢です。</li> <li>◎環境や資源への影響に配慮して、大豆油インクや再生紙を用いています。</li> </ul>

# 「新しい社会科地図」の内容構成

## ■世界の一般図の構成

世界とその諸地域			
世界全図	P.1-2	世界の国々	
大陸図、 大洋図	P.17-18	ユーラシア	4000万
	P.18	北極圏	1億 1000万
	P.37-38	アフリカ	4000万
	P.39-40	南北アメリカ	4000万
	P.40	南極	1億 700万
	P.45-46	環太平洋、オセアニア	5000万
地域 詳細図	P.21-22	東アジア、南アジア	2000万
	P.24	朝鮮半島	500万
	P.27-28	東南アジア	2000万
	P.29-30	ヨーロッパ	2000万
	P.31-32	ヨーロッパ中央部	1000万
	P.35-36	ロシア連邦	3000万
	P.41-42	北アメリカ中央部	1500万
	P.47-48	オーストラリア、 ニュージーランド	2500万

## ■日本の一般図の構成

日本とその諸地域				
日本全図	P.151-152	日本の都道府県		
	P.49	日本の周辺	2000万	
地域 詳細図	P.59-60	南西諸島	300万	
		沖縄諸島	100万	
	P.61-62	九州地方	100万	
	P.67-68	中国地方	100万	
	P.69-70	四国地方	100万	
	P.71-72	近畿地方	100万	
	P.77-78	中部地方	100万	
	P.85-86	関東地方、伊豆諸島	100万	
	P.94-96	東北地方	100万	
	P.99-100	北海道	200万	
	P.101-102	北海道の南部	100万	
	都市圏図	P.63-64	福岡県の拡大図	50万
		P.73-74	京阪神の拡大図	50万
P.79-80		愛知県の拡大図	50万	
P.87-88		東京都と周辺	50万	

## ◆資料図と統計資料の項目を大幅に増やしました。

○資料図は、現行本では219点

⇒新課程本では**252**点

(世界**124**点、日本**128**点)

○統計資料の項目

- ・世界の農産物の生産：12⇒**24**
- ・世界の鉱産物：7⇒**14**
- ・日本の農産物：12⇒**22**

## ■資料図の構成

世界		日本	
1部 世界全体の基本的資料		1部 日本全体の基本的資料	
P.7-9	60億人がくらす地球の環境 他	P.49-50	日本の地域区分 他
P.10	持続可能な世界をめざす取り組み 他	P.51-52	日本の自然環境 他
P.11-12	世界の自然(地形) 他	P.53-54	日本の人口、日本の産業 他
P.13-14	世界の自然(気候) 他	P.55-56	日本の資源と産業 他
P.15-16	世界の歴史と文化 他	P.57-58	日本の貿易、交通と通信 他
1部 世界の諸地域		1部 日本の諸地域	
P.18	アジア各国の独立	P.64	九州の中心都市、福岡市
P.19-20	ユーラシア大陸中央の自然環境と歴史、ベルシャ湾岸の自然環境と資源 他	P.65-66	九州北部の変化と環境保全、アジアとの交流、中国地方の人口分布と変動 他
P.22	中国の行政区分	P.74	商業都市として歴史を持つ大阪
P.23	中国沿岸の経済と文化 他	P.75-76	琵琶湖の水利用と環境保全、京都、奈良での文化の維持と観光
P.25-26	中国の地位、中国の気温と降水量、工業、人口密度と都市、民族 他	P.80	中部地方の中心都市、名古屋市
P.28	アジアの稲作地帯と気候 他	P.81-82	発電所の分布と電力供給、愛知県と周辺の自動車工業、愛知県の農業 他
P.30	冬のヨーロッパの気候	P.83-84	2008年と1958年の小浜市付近(5万分の1地形図)、地形図のおもな記号 他
P.33-34	ヨーロッパの統合と格差、言語と宗教、自動車工業、農牧業	P.89-90	千葉県、茨城県の野菜の生産、関東地方の工業の変化、東京圏の広がり 他
P.35-36	ロシアとその周辺の農業、鉱工業	P.91-92	首都東京の都市機能 他
P.38	アフリカの産業、南南問題	P.97-98	東北地方の気候と農業、北海道の地域開発と保全 他
P.40	南極のオゾンホール拡大	P.101-102	札幌市、函館市の中心部
P.41	アメリカ合衆国の領土拡大		
P.43-44	アメリカの農業、鉱工業、人々 他		
P.47-48	オーストラリアの農業、鉱工業 他		
2部 世界全体のくわしい/補う資料		2部 日本全体のくわしい/補う資料	
P.103-104	世界の気候 他	P.121-122	世界と日本の統計資料 他
P.105-106	世界の農林水産業 他	P.123-124	日本の気候と自然災害、各地の平均気温、平均降水量 他
P.107-108	世界の資源と工業 他	P.125-126	日本の農業生産、農産物の輸入 他
P.109-110	世界の生活と交流 他	P.127-128	日本の工業地域、外国人登録者数
P.111-114	世界の国の統計 他	P.129-130	日本の都道府県の統計資料 他
2部 世界の諸地域 くわしい/補う資料		2部 日本の諸地域 くわしい/補う資料	
P.115-116	世界の中華系住民、朝鮮半島の産業、東南アジア、南アジアの鉱工業 他	P.131-132	九州の水産業、平和都市長崎、広島、鳥取砂丘の開発、四国南部の野菜生産 他
P.117-118	ヨーロッパの鉱工業、観光、食生活、国境の移り変わり、イスラム教徒の生活 他	P.133-134	大阪の市街地と鉄道網、神戸市の都市開発、新潟県の自然災害、甲府盆地の農業 他
P.119-120	アフリカの独立国、ニューヨークの都市機能、アマゾン河流域の開発、ニュージーランドの自然、産業貿易 他	P.135-136	江戸から東京への移り変わり、大都市が抱える環境問題 他
		P.137-138	東北地方の伝統産業と行事、北海道の自然と観光 他

# 社会科教科書との関連

## ■単元配列の関係

- 本地図帳の構成は、教科書「新しい社会」地理的分野の単元配列と関連させています。

構成	頁	「新しい社会科地図」	頁	「新しい社会」地理的分野
世界地図	P.21-28	アジア 東アジア, 南アジア	48-49	経済成長がいちじるしい中国とインド
	P.29-34	ヨーロッパ	60-61	進むヨーロッパ統合
	P.35-36	ロシア連邦	62-63	ヨーロッパの課題とロシア連邦
	P.37-38	アフリカ	68-69	アフリカの産業と新たな開発
	P.39-44	南北アメリカ 北アメリカ	80-81	アメリカで生まれた生活・文化
	P.45-48	オセアニア	94-97	資源・人々によるアジアとのつながり
日本地図	P.51-52	日本の自然環境	126-135	世界から見た日本の自然環境
	P.53	日本の人口	138-143	世界から見た日本の人口
	P.54-56	日本の資源と産業	144-153	世界から見た日本の資源・エネルギーと産業
	P.57-58	日本の貿易, 交通と通信	154-157	世界と日本の結びつき
	P.65	九州北部の変化と環境保全	164-165	多様な環境問題と環境保全の取り組み
	P.66	中国地方の人口分布と変動	176-177	高齢化が進む農村と町おこし
	P.76	京都, 奈良での文化の維持と観光	P.184-185	古都の成り立ちと現在
	P.81	中央高地のレタス栽培	P.196-197	自然環境を生かした各地の農業
	P.90	世界との結合	P.208-209	世界への窓口・日本の中心
	P.97	東北地方の地形と果樹栽培	P.212-213	東北地方の人々の営み
	P.98	北海道の地域開発と保全	P.226-227	畑作物・酪農製品づくりとその活用

教科書  
と同じ  
配列!

## ■社会科3分野との関連

### 地理的分野

- ①世界地図の配列は教科書と同一
  - アジア, ヨーロッパ, アフリカ, 南北アメリカ, オセアニアという大陸を意識した配列です。
- ②日本の諸地域の導入で同一教材
  - 九州や中国・四国などの学習では地図帳 (p.61,68 の注目したい記号) を活用すると, より効果的にご指導できます。
- ③世界全体のくわしい／補う資料が充実
  - この項目に十分なページをさき, 多様な学習活動に配慮しています。(p.103-114)

### 歴史的分野

- ①歴史的な観点の資料が豊富
  - 「約100年前の世界」(p.15-16), 「商業都市としての歴史を持つ大阪」(p.74) など歴史的な視点からまとめた資料図を掲載しています。
- ②歴史的な地名や遺跡を強調
  - 歴史的分野の教科書で扱う地名や遺跡は, 紫色に白い文字で強調しました。例えば, 中部地方の地図 (p.77-78) には20か所を数えます。
- ③巻末 (p.149) に歴史や遺跡の索引も掲載

### 公民的分野

- ①公民的分野の資料が豊富
  - 国際理解 (p.33 ヨーロッパの統合と格差), 平和教育 (p.131-132 長崎・広島), 情報教育 (p.58 インターネットの普及率) などに関する資料図を取り入れています。
- ②環境問題を系統的に展開
  - 地球環境を特集した「66億人がくらす地球の環境」を巻頭 (p.7-10) に設けたうえで, 自然と人間との関係が各地域の学習で系統的に考察できるように配列しています。
- ③巻末 (p.149) に国際機関の索引も掲載

## ■掲載地名の一致

- 教科書に掲載の地名は, 特殊なものを除いて本地図帳 (一般図) に掲載してあります。本地図帳には全市町村名を入れてあります。
- 教科書に掲載の地名は, 可能な限り巻末さくいんに取り入れています。